

環境大気常時監視マニュアル改訂検討会第1回における委員指摘事項について

項目	検討会における議論	対応状況
測定局	第2章2「測定局舎」における落雷対策及び局舎内装・外装にも注意が必要。	マニュアルに記述を追加
測定値の精度	測定機の数値の信頼性(精度)は、どの程度まで要求されるのか。	測定機の数値の信頼性や精度管理体制については、マニュアル改訂作業の範囲とは別に、情報収集や調査を行っているところ。今後、収集した知見を基にあるべき姿を検討する。(マニュアルでは、今後の検討課題として記述。)
	基本的問題で議論が必要。環境基準値の根拠にかかわる難しい問題。	
	大気常時監視環境基準の達成状況の把握することのみが重要なのか、又は達成後の確認が重要なのか。その目的を明らかにした上で、測定値の精度を環境基準の10%まで求めるのか。	
	(環境省)第一義的には、環境基準の値で達成状況を把握すること。	
測定値の精度管理	測定データの信頼性は環境省が決定すべき問題。データを対外的にも耐えうるものとするためには、精度管理をきちんと行う必要があり、米国のようなトレーサビリティの確保が重要。	
	オゾンなどは、測定結果の国際的なデータの整合性が求められている。	
	国際比較の場合は環境基準の測定方法等とも関係があり、マニュアル改訂作業の範囲では難しい。	
マニュアルとJISの関係	JISの仕様と環境省の基本仕様のどちらを優先するのか(特にオキシダントのJIS改正)。	マニュアル第4版の基本仕様とJISを比較し、JISが厳しい場合はJISに合わせる。オキシダントの動的校正については、今後、JIS法との比較・評価を行った上で、マニュアルへの記載を検討する。
	(環境省) JISを使うことができる場合はJISを使う、というのが基本的なスタンス。	
必須事項と参考事項	実施しなければならない事項と、望ましい事項とを、マニュアル中で切り分けるべき。	処理基準に規定されている測定方法及び保守管理について、必須事項と参考事項をできる限り区分して記述した。
常時監視システム	常時監視システムの記述は、PCサーバーとLANの組み合わせなど最新の技術動向を盛り込んだものとして欲しい。	作業部会において、最新の技術動向を追加した。
データ提供	全国の測定データがデータベース化されることに寄与できるようになればよい。	国立環境研究所における1時間値収集について記述し、フォーマットを掲載した。
	測定データ提供用の標準フォーマットを示してほしい。	
マニュアルの検索機能	インデックスがなく検索しづらい。キーワードを入れ、検索CDをつけるとよいのでは。	CDに索引・検索機能を追加する。
	検索できる通達集を作ってほしい。	通達のデータベースを整理し、CDへの添付又はホームページ上の公開を図る。
マニュアルの位置付け	マニュアルの位置づけを、どこかに記載するべきである。	巻頭言において記述。
マニュアルの対象者	知識の少ない人と熟知者(委託業者等)のどちらが対象か。情報を、必要と参考に分けるべきかもしれない。	マニュアルの対象は、大気常時監視の実務に従事する行政実務担当者で、初心者から3年目程度までを対象とする。初心者への対応としてわかりやすい記述を心がけた。技術的な詳細事項については、情報提供として記述した。
	行政関係者も研究機関担当者にとっても概要がわかるものがよい	
	行政担当者は数年で変わるため、十分な時間がないのが実情。技術的なこととは別に、基本的な考え方(コンセプト)も示すべき。	
	アンケートの結果も二分化。外部委託が多く、維持管理がしっかりできるマニュアルが必要。	
	(環境省)マニュアルのターゲットをどうするのか、等については事務局で検討したい	